

## 平成 29 年度 FD 実施報告書

研究科・学部・学科	食物栄養学科
<p><b>FD 取り組みへの理念・目標</b></p> <p>[理念] 食物栄養学科の 3 ポリシーに基づき実践力のある栄養士を養成するための学修支援、それを可能にするための教員の教育能力向上のための組織的な取組を实践する。</p> <p>[目標] 上記理念に基づき、平成 29 年度からの学科定員 (80 名) に対する将来構想を中心に「大学教育の質的転換」「教職員の資質向上」を柱として、以下に挙げるテーマ・内容について検討する。これにより、教職員間の意識の統一および「主体的に学び、考え、行動する人材の育成」を目指し、社会に貢献できる栄養士の輩出に取り組む。</p>	
回数、期間、実施日等	実施事項・内容、実施組織、評価項目等
<p>第 1 回 5 月 11 日 (木) 17 : 30 ~</p>	<p>テーマ 1 「平成 30 年度入試制度の再検討」 定員削減による志願状況、指定校による出身高校別の GPA の状況、県外受験者減少等の動向に注視しながら入試種別ごとの適切な志願者数確保を行う必要がある等、検討された。</p> <p>テーマ 2 「入学者の基礎学力の向上について」 入学者の基礎学力の把握と今後の学修支援のために、プレイスメントテスト結果について検討し、ラーニングサポートセンターとの連携による学修支援 (補完授業) を化学、生物を中心に実施することが検討された。</p>
<p>第 2 回 6 月 1 日 (木) 16 : 40 ~</p>	<p>テーマ 1 「入学者のミスマッチ等の解消とピアサポート」</p> <p>①平成 29 年度学生の現状と課題、各部署との連携： 退学者減対策委員会 食物栄養学科の退学除籍率は、平成 28 年も 1.25% と低い水準を保っている。H27 年度から実施されているピアサポート制度 (教育改革支援制度の活用) の成果の一端が窺えた。今後も、高大連携による情報の交換、指導主任による個人面談、ピアサポートなどのきめ細かな対応を軸に、アドミッションポリシーに沿った入学生の確保に繋げることが確認された。</p> <p>②ピアサポートの実施と今後の計画 ピアサポートは、学修サポートと行事サポートの 2 本柱で実施され、学生の不安解消につながっていることが報告された。</p> <p>テーマ 2 「将来構想①」 (定員 80 名に対応した取り組み)</p> <p>①新クラス運営と授業内容の充実化に対する実施状況 新入生の状況についてクラス主任より報告された。また各教科科目担当者から定員 80 名での授業の状況について報告された。</p> <p>②キャリア教育の方向性について：編入対策委員 平成 29 年度の編入対策講座等の取り組みについて提案された。また他大学への編入希望も増加してきていることから、英語、小論文他、早い段階からの指導や対策の必要性について情報の共有化が図られた。</p>
<p>第 3 回 8 月 3 日 (木) 14 : 30 ~</p>	<p>テーマ 1 「Moodle を利用した N-Leaps 活用法」学修支援システム (N-Leaps) の操作入門 パソコン室において、学科内の担当教師より N-Leaps の操作入門と題して、実際にパソコン操作を行いながら実施された。授業についての学生への連絡やレポート提出、小テストやアンケート等へも活用できることを学んだ。</p>

<p>第4回 10月12日 (木) 17:00 ～</p>	<p>テーマ1「前学期の取り組み」の評価 ①「大学基礎演習」の授業アンケート調査結果・今後の課題について 授業への到達度や満足度は概ね昨年と同様であった。アンケート結果から内容等を見直し て取り組むことが確認された。 ②「栄養士基礎講座」内容の充実化 「栄養士基礎講座」を本年度から15回に拡大し、職業観・使命感・倫理観等の強化を目的 として実施した。授業後のアンケートでは、学生生活に役立つ99%、栄養士の役割を以 前より理解した100%、倫理観や職業観が高まった100%など好評であった。 テーマ2「質の高い栄養士養成」 ①平成29年度の栄養士実力認定試験において、A判定者80%以上を目指した本年度の取 組として、栄養士実力認定試験模試の成績が6割未満の成績の者には、昨年に引き続き補 習授業(自主学習の確立)の時間を設けることが確認された。</p>
<p>第5回 12月7日(木) 16:40～</p>	<p>テーマ1 学生の学びについての現状把握とさらなる学修支援 ① 入学前準備講座・補完講座・編入対策・プレイスメントテスト：ラーニングサポート センター教育職員 食物栄養学科のラーニングサポートセンターの利用状況について報告された。1年生は基 礎的な内容、2年生は進路に関する小論文や編入対策での利用が多かった。プレイスマン トテスト等の結果から、学生の状況に合わせて個別指導を実施し成果が出てきている。 ② 学生生活実態調査結果について：生活支援課 岩尾課長補佐 食物栄養学科の満足度は88.5%と高かった。不満でも満足でもない中間層の学生を「満 足」に引き上げる教育・指導・その他が必要であることが示された。</p>
<p>第6回 3月1日(木) 13:00～</p>	<p>テーマ1 後学期授業評価結果の報告と来年度の授業に向けて 後学期の授業アンケート結果について報告された。先生方の授業評価結果をまとめると、 自学実習時間をのばすための工夫、N-leapsの活用の仕方、オムニバス科目の授業評価の 回収率に対する配慮等、改善すべき課題が提示された。 テーマ2 プロジェクト研究の進捗状況について 食物栄養学科の3プロジェクトの進捗状況について報告された。久山町研究では「久 山町研究報告書」が、九州の郷土料理を英語化するプロジェクトではリビング福岡に 内容がその都度Web配信され、来年8月のオープンキャンパスで冊子が配布される こと、保育園児(乳幼児期)の栄養摂取状況と生活習慣等に関する研究では、残食等 について検討され残食ゼロの献立集が作成されたことが報告された。</p>

**「教育システム改革2014(FD2014)」の進捗状況** (大学院は該当する項目のみ記入)

項目	主な実施内容	進捗状況	補足説明
体系的な教育課程の編成	ナンバリングの導入	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	昨年度のFDで取り組んだ。新入生のオリエンテーション等の説明に用いるとともに、学生には常に携帯するよう指示した。
授業科目の組織的な管理	ループリックの導入	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	昨年度のFD研修で取り組んだ。今年度の授業評価では、ループリックを導入する教員が増加していた。
教員の教育力に対する評価の導入	授業アンケート結果の組織的な活用	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input type="checkbox"/> 実施中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施済	第6回FD研修会で実施され、平成30年度の授業改善に活用する。
教育方法の改善	アクティブラーニング(特にPBL)の推進 PBL：課題解決型授業	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	実施済の取組についてその効果等を検証した。今後も継続して実施していく予定である。
グローバル教育の推進	グローバル教育の導入	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	昨年に引き続き、プロジェクト研究等での世界の食文化への対応や外国語分野での取組が実施されている。
高大接続教育の推進	高大接続教育の推進	<input type="checkbox"/> 未着手 <input type="checkbox"/> 検討中 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 実施済	併設校での入試説明会の実施等や退学者等の状況を視野に入れながら状況を把握中である。